

(様式第1号)

令和4年度 第1回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

日 時	令和4年7月22日(金) 14:00~16:00
場 所	男女共同参画センター 大会議室
出席者	委員長 酒井 達哉 副委員長 柳生 加代子 委員 高橋 孝子 委員 吉野 哲夫 委員 金本 ひとみ 委員 小林 貴子 委員 新宮 優子 委員 小西 絵理香 委員 池田 恵 委員 野村 大祐
欠席者	
事務局	社会教育部長 茶嶋 奈美 生涯学習課長 岩本 和加子 生涯学習課係長 石田 直也 生涯学習課 海士部 香苗 青少年育成課長 富田 泰起 青少年育成課係長 山内 健 青少年育成課主査 松本 匡史
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 教育長あいさつ
- (3) 委員自己紹介、事務局職員自己紹介
- (4) 委員長、副委員長の選出
委員長1名・副委員長1名
- (5) 放課後子どもプラン事業について
 - (ア) 令和3年度放課後プラン利用状況等について
 - (イ) 令和4年度の取組みについて
 - (ウ) 学校運営協議会及び地域学校協働活動について
 - (エ) その他
- (6) 閉会

2 提出資料

- ・ 【資料1】 放課後プラン事業の概要及び校庭開放事業について
- ・ 【資料2】 あしやキッズスクエアについて
- ・ 【資料3】 令和4年度の取組みについて
- ・ 【資料4】 学校運営協議会及び地域学校協働活動
- ・ 【資料5】 芦屋市の学校運営協議会

3 委員長・副委員長の選出

芦屋市放課後プラン(子ども教室型放課後対策)事業実施要綱第10条第2項に基づく互選により、酒井委員を委員長に、柳生委員を副委員長に選出。

4 議事内容

<酒井委員長>

議事に入る前に、放課後プランの概要について、生涯学習課より説明をお願いします。

<事務局：海士部>

(配布資料：【資料1】に基づき、放課後プラン事業概要について説明)

<酒井委員長>

引き続き、議事に入ります。令和3年度放課後プラン利用状況についてですが、まず、校庭開放事業について、生涯学習課より説明をお願いします

<事務局：海士部>

(配布資料：【資料1】に基づき説明)

<酒井委員長>

続きましてキッズスクエア事業概要及び実施状況について、青少年育成課よりお願いします。

<事務局：松本主査>

(配布資料：【資料2】に基づき説明)

<酒井委員長>

ありがとうございました。それでは、ここまでのところで何かご質問等ございませんでしょうか。無いようでしたら私から質問させていただきます。〔資料2〕の3ページの登録児童数と登録率の表で、今後芦屋市として、登録率の見通し又は対策がありますで

しょうか。ここ数年減っているようですが、いかがでしょうか。

<事務局：富田課長>

コロナ前は全児童の半数登録しており、スタッフの努力のおかげで保護者から高く評価されていました。コロナになってから登録率が下がっており、家にいたり、習い事をして、他に居場所を見つけているように考えております。

青少年育成課としましては、コロナ前の5割前後を目標にして、登録率を上げていきたいと考えています。登録率の向上だけを意図したものではありませんが、広報あしや8月号に、事業の特集記事を掲載します。

また、8月前半にはケーブルテレビのあしやトライあぐるで、キッズスクエア特集を放映します。キッズスクエアを知らない保護者の方に、まず知ってもらい、見学等を通して、キッズスクエアの登録率を上げていくことに繋げていきたいと考えています。

<酒井委員長>

ありがとうございました。今後の見通し、よくわかりました。

<柳生副委員長>

コロナになってから、室内のプログラムがほぼ無くなっている状況です。室内でのプログラムが再開される見通しはあるのでしょうか。

<事務局：富田課長>

兵庫県のコロナ対処方針で、学校関係者以外の方が学校内に入るのが難しい時期があり、ほとんどプログラムが出来ないような状況がありました。

今年に入ってから、行動制限が緩和されてきていますので、まずは安全にキッズスクエアを実施することを念頭に再開をしつつ、プログラムについてもコロナ前のプログラムに徐々に戻していきたいと考えております。また昨年度から、Z o o mなどのオンラインを使った体験プログラムを取り入れています。昨年度の実績になりますが、スイス在住の方とオンラインで繋がって、現地の生活や文化について話し合うプログラムを実施しました。このような新たな形で、内容を充実させたいと思います。

<高橋委員>

朝日ヶ丘小学校では、今年になってようやく参観日が始まり、放課後の時間に学校で遊ぶ子ども達が増えてきました。行事も実施するようになり、低学年の子ども達を見かけるようになりました。

学校関係者としてしましては、放課後に居場所がない子どもが、たくさんいます。

コミスクもお金がかかりますので、内容が分からなかったり、外国の方は、情報がは

いらないので、私たちとしては放課後の居場所として、学校を子ども達に利用してほしいと思っています。

保護者の方、どれだけ周知しているかが重要かと思います。チラシを配布されているかと思いますが、外国人の方は読めないので理解できません。

家に一人で留守番している子どもは、参加しません。そういう子どもたちが自由に参加できればと思います。

<事務局：富田課長>

年度途中に参加申込みされた方の話をうかがうとキッズスクエアを知らなかったと時々聞くこともありまして、こちらもまだまだ周知が出来ていないと思っているところがございます。外国の方への対応も考えてみたいと思います。

<酒井委員長>

すばらしい活動をされていますので周知の方と、コロナの状況もまだ予断は許しませんので、柔軟に進めていただければと思います。

<小西委員>

現場に入らせていただいている立場から、登録率をみると、高学年になると塾や習い事があるので来なくなったり、キッズスクエアでは低学年が多いので、知っていても行かないように思います。

保護者懇談会のあった週は、小学1年生2年生の児童およそ70名が、一人で留守番できないなどの理由で懇談会が終わるまでの間の預かりが多くみられました。

2年生の時は必ず来てくれていた子どもが、3年生に上がる段階で、本人か家族の判断が分かりませんが、登録しないというケースもあります。

コロナ前の平成29年度に50%を超えているのは、必要としている児童は、登録してくれているように思います。

<酒井委員長>

登録の数字を分析していただきまして、50%程度を目標の数値にすることと、合致したと思います。あと年度途中で改めて聞いてみたら、ヒントが見えてくるように思いました。では、次に令和4年度の取り組みについて、生涯学習課よりお願いします。

<事務局：海士部>

(配布資料：【資料3】に基づき説明)

<酒井委員長>

何か質問、意見ございませんでしょうか。

<新宮委員>

コミスクとキッズスクエアを関わらせていただいております。

コロナが始まってから、コミスクのイベントもキッズスクエア活動も中止が非常に多くなりました。

キッズスクエアも登録率が下がるのがわかるように、活動中止となって、キッズスクエアに行けなくなる親子もいて、キッズスクエアが無くなるかわからないような不安になられて、学童に入れられたり、他に居場所作りを決められたりした要因があるように思われますが、個別にコミスクの行事、キッズスクエアの行事とするのではなく、協働して子ども達の居場所作りを多岐にわたって関わられるようにしたいという思いがあります。

シーサイドの1万人規模の夏祭りを予定していましたが、コロナが増えたので中止になりました。子どもたちが行くところがないので、浜風小学校では、コミスクとPTAと学校の協力で、プール開放を実施します。

キッズスクエアに行きながら、プール開放の時間に参加できるようにいたしました。浜風小学校は、お昼ごはんを持ってきていいので、8時30分～17時まで1日中、学校にいる子どももいます。子どもを取り巻く環境が分断しないように子どもが安心できるような居場所を地域の方と協力してやっていきたいと思います。

<酒井委員長>

今、お話しされたことで、事務局側で何かコメントありませんか。

<事務局：富田課長>

コミスク、キッズスクエア、学童の現場の方々、子ども達の居場所作りで、努力されていることに感謝しております。青少年育成課、生涯学習課にも、いろいろとご意見をいただいているのですが、課題の整理をしながらになりますので、すぐにできないところもあるのですが、できるところからしていきたいと思いますので、ご意見きかせていただきたいと思います。

<酒井委員長>

横のつながりが大切になってくると思いますし、子ども達のために連携を取りながら、無理のない範囲で、少しずつ前に進んでいただきたいと思います。

では、議題（3）学校運営協議会及び地域学校協働活動につきまして、事務局よりお願いします。

<事務局：岩本課長>

(配布資料：【資料4】に基づき説明)

<野村委員（学校教育課長）>

(配布資料：【資料5】に基づき説明)

<酒井委員長>

説明をお聞きになって、何かご質問ございませんか。

<池田委員>

【資料4】の岡山県浅口市の事例で、主任児童委員をしていますが、不登校のお子さんに対して何ができるだろうと思いました。難しい問題かと思いますが、少しずつ踏み込んでいかないといけない時代と思いました。

<酒井委員長>

私も他市で学校運営協議会委員を数年経験していますが、実現不可能かと思われるかもしれませんが、回を重ねていくごとに少しずつアプローチができるようになりました。まずは課題を地域で共有することから始まるように思います。

自治会の立場から、吉野委員、ご意見ありますでしょうか。

<吉野委員>

登校児の見守りをしていますが、学校との接点がないんです。コロナ前までは、登校下校どちらも見守りをしていましたが、コロナ後は、学校から下校時の連絡がないのでできていません。こちらから問いかけても、なかなか返事が返ってこないのが実情です。

<酒井委員長>

学校の立場から、高橋委員、何かご意見ありますでしょうか。

<高橋委員>

朝日ヶ丘小学校の学校評議員会では、防災士の方に入ってもらっています。災害が多くて、最近は大雨警報で児童が帰りましたし、熱中症の危機管理の心配があります。

防災倉庫もあり、市から物資を提供してもらって充実していますが、なかなか学校だけで倉庫の中の整理が出来ていない状況です。コロナ禍の中で、教員も疲弊しているので、地域と学校を結び付けてくれるコーディネーターの方に入っただけなのは、とても有難いです。災害があったときに地域の方と協力して連携したいと思っています。

昨年は、防災士の方に6年生の授業で、防災倉庫の中を確認しました。防災は一例で

すが、地域の方に登下校の見守りやミシンの授業、給食の指導をしていただき、とても助かりました。教員の目線だけでなく、地域の方のいろんな目線が子どもに注がれるのは、とても大事なことに思います。

<酒井委員長>

学校運営協議会が必要だと思われたと思いますが、他にご意見ありますでしょうか。

<柳生副委員長>

学校評議員会から学校運営協議会に変わることで、学校の先生達の業務が、負担が増えないかと危惧しています。ここまで資料を読みながら説明を受けて、学校を中心に、子ども達の育ちの見守りを地域みんなで連携していこうという主旨は伝わってきましたが、この移行に具体的に一步を踏み出すのが難しく思い、まだイメージが掴めていないところがあります。中学校では特に部活動を担って土日もない先生方を知っていますので、先生の本래の仕事に集中できるようなサポートが地域全体で出来る事は、とてもいい事だと思いますし、芦屋市の学校運営協議会が、子ども達の育ちを良くしていくように是非なってもらいたいと願いますが、現状では、なかなか難しいところがあると思います。

キッズスクエア一つにしても、学校の施設を借りていますが、なるべく先生に負担をかけないように、例えば子どもがケガをしても、保健の先生に迷惑かけないように、スタッフで対処しています。キッズスクエア、学童と子ども達を見守っていますが、先生に迷惑をかけないようにと気遣っていて、連携という言葉とはまた違っているのが実情です。

<酒井委員長>

モデル校がどうなったかというのは、これから明らかになってきて、他の学校も、成果と課題にそって進めていかれるのでしょうかね。

<野村委員（学校教育課長）>

モデル的实施が1学期1回だけ終わった段階ですので、2学期にするにあたって、まず課題を学校が出したり、地域の方が出したり、優先順位をつけたりと、まずは課題の共有を大事にしながら、進めているところです。その地域の方々で進めていくのが学校運営協議会ですので、その課題がきちっと出されて、コーディネートしていく形になるかと思っています。

<事務局：岩本課長>

【資料4】1ページ地域学校協働本部というのは、それぞれの学校にPTAや保護者

等の本部としてのネットワークがあるものでして、そこだけになると地域によって偏りが出たり、いい取り組みがあっても共有されなかったりしますので、この運営委員会では、地域学校協働本部の活動を情報共有するような場になればいいのではと検討しているところでございます。

<酒井委員長>

私の経験上、その場の意見を実現化させていくコーディネーターの方の力が大きいと実感しています。PTAの立場から、小林委員何かご意見ありませんか。

<小林委員>

コーディネーターの方をどうやって選出してくるかという事になってくるのかと思いますが、学校や地域に詳しい方がなるのでしょうか、その選出方法がわからないとコーディネーターになられる方が見つからないのではないのでしょうか。

<酒井委員長>

おっしゃる通りですね。ご意見ありませんか。

<高橋委員>

社会教育士の方がコーディネーターをするという事を聞いたことがあります。地域の方にいらっしゃたら、いいように思います。

<酒井委員長>

芦屋市はキッズスクエアという他市にはない財産がすでにありますので、それをいかにもうまく活かして、学校運営協議会を進めていけるようにすればいいのではないかと個人的に思います。

<事務局：岩本課長>

コーディネーターをされている方については、いろんなケースがあるようでして、地域活動されている方やPTAの方もいますし、芦屋市ではコミスクがありますし、教育委員会の指導主事の職員が地域の方のご意見を聞きながらコーディネートしていくという事例もあります。またコーディネーターを設置していないケースもありまして、具体的にどのように選出するのが良いのか、負担はどの程度になるのか、芦屋のいいところを活かした選出であるとか、様々なご意見をいただきながら、芦屋市でのいい方向を模索していきたいと思っています。モデル校でも、そういった議論ができればと思っています。

<新宮委員>

モデル校が浜風小学校ですが、今、お話しを聞いていて、キッズスクエアの関わりについてですが、私も柳生委員と意見が同じで、キッズスクエアは立ち上げる時から、学校に迷惑をかけないように別組織と聞いています。「何かあっても先生に相談するのは、やめてください。」というような状況ですので、キッズスクエアとは沿わないと思います。

私は宮川小学校の学童もお手伝いしていますが、各学校によって、コミスクや学童の関わり方が違いますので難しいのですが、例えば今、私がこの会にいるのは、子どもが小さい時から、PTA役員をして、愛護委員をして、評議員をやり、キッズスクエアと地域のことに関わりを続けてきたからです。だから、どの組織にも知り合いがいて、浜風小学校の委員の方は、そういったPTAやコミスク、評議員、子ども会、自治会と色々な役員を経験している方が多いです。

学校支援ボランティアの浜風小学校応援団として、民生委員、児童委員、愛護委員、見守りボランティアの地域の方20名程度が毎学期1回集まり、校長先生が説明されて、見守りや春休み夏休みでの地域との関わり、学校で困っていることで何か手伝えることを話し合っ、出来そうなことがあれば、「この内容については、私たちの組織に持って帰って検討してみます。」と言われて、浜風小学校は、どなたかに言えば、情報が広がって人探しができる場所があります。園芸活動も、コミスクがしましょう。愛護委員がしましょう。という持ち寄りがあるのです。昨年、校長先生が学校の消毒作業ボランティアを募った時も、誰かできるかを愛護や子ども会、PTA、老人会の地域の方に情報を広げて、募ってさせていただきました。浜風小学校は、学校との繋がりがるように思います。

懸念しているのが、PTAが任意になりました。働くお母さんが増えたことで、いろんな参加がかなり減りました。毎月していたPTAの会議は1学期に1回になり、お手伝いも無しになっています。こういうのは基本がボランティア精神なので、今はたくさん元気な方や年配の方で、地域活動は成り立っていますが、今後PTAのお母さん方が、コーディネーターとか清掃活動、子どもの給食活動のお手伝いをしますよというのが減ってくるように懸念しています。

今は、声掛けしましたら、地域の方が動いてくれて連携がとれていると思います。

<酒井委員長>

ありがとうございます。土壌が育っている地域かと思しますので、そういう特性をいかしてより前に進んでいけたらと思います。

事務局で、最後おっしゃられることがありますでしょうか。

<野村委員（学校教育課長）>

参考にさせていただき、かつ今2校でモデル的实施に取り組んでいるところが、また

次の学校への広がりにつながると思いますので、そのモデルともなるように進めていきたい
と思います。ありがとうございました。

<酒井委員長>

3つ目の議題を終了させていただいてよろしいでしょうか。

芦屋市の子ども達のために、ご意見いただきましてありがとうございました。

事務局の方も、いろいろと情勢が変わっていきますが、柔軟に対応していただきまして、
次回その先のお話を聞かせていただきましたら、大変嬉しいです。

今日は皆様ご苦勞様でした。これで終了させていただきます。

閉会